

これまでの関西・中四国支部の活動を振り返って

○北村寿宏（島根大学）、藤原貴典（岡山大学）、石塚悟史（高知大学）、李 鎔璟（山口大学）、永富太一（香川大学）、秋丸国広（愛媛大学）、西原圭志（神戸大学）

1. はじめに

産学連携学会関西・中四国支部は、産学連携学会の支部の一つとして、平成 21(2009)年 12 月に設立された。本支部では、産学連携学会の会員を中心に支部のエリア内の産学連携関係者の相互の連携を促進することを大きな目的に活動を行っている。今回は、設立後 10 回目となる研究・事例発表会にあたって、その節目として、当支部のこれまでの活動を振り返り、現状と課題について報告する。

2. 支部の概要

関西・中四国支部は、関西、中国、四国地方を一つのエリアとして、そこで活動する産学連携従事者などの相互の連携を促進し、「地域の繋がり」を強めることを目的に、情報交換を行い、産学連携活動を効果的に進められるよう、平成 21 年 12 月に設立総会を経て発足した。関西、中国、四国地方を一つのエリアとしたのは、岡山を中心とすると、比較的交通の便が良く、およそ 2 時間半（150 分）の移動時間でカバーできる範囲であり相互の交流が容易であろうと考えられたからである。支部のホームページ¹⁾やメールアドレスに「150」という数字があるのは上記の理由によるものである。

支部の主な活動は、研究・事例発表会の開催、メールニュースの配信やホームページ¹⁾による情報提供である。メールニュースは、構成員、準構成員のほか、研究事例発表会に参加された方々にも送っている。このほかに支部の運営を円滑に行うために数名の幹事を置き、幹事会や幹事用のメーリングリストなどを活用し支部の運営のほか産学連携に関する様々な議論を行っている。

3. 支部の活動概要

3. 1 研究・事例発表会

支部の最大の活動は、研究・事例発表会である。これは関係者が集まり議論・交流する場を作ると言う観点から企画された。従って、人が集い情報交換や議論できる機会を提供するということが最大の目的に実施している。この目的を達成するためのコンセプトは、①研究成果だけでなく産学連携の様々な事例を発表できること、②発表会だけでなく情報交換会をセットで行うこと、③低コストで発表会を実施すること、などである。特に、「事例発表会」という名称に示されるように、事例についての発表を気軽に行えるように配慮されている。

これまでに行った研究・事例発表会の一覧を表 1 に示す。関西、中国、四国地方の各地で開催している。なお、第 1～6 回は半日の開催で、第 7 回以降は一日目の午後から二日目の午前にかけての二日間にわたる開催としている。参加者は、30～50 名程度であり、開催地からの参加割合が高くなる傾向が見られ、産学連携や学会自体を知ってもらおうという観点では、各地で行う意義があるといえる。ただ、各会ともに大学関係者の割合が高くなっており、学会と言うことが意識されていることも窺える。

表 1 研究・事例発表会の開催一覧

発表会	参加者数 (人)	開催地 割合(%)	大学関係 者割合(%)
第 1 回研究・事例発表会 (2009 年 12 月 4 日 松江市)	42	43	71
第 2 回研究・事例発表会 (2010 年 12 月 3 日 高松市)	35	29	69
第 3 回研究・事例発表会 (2011 年 12 月 9 日 和歌山市)	48	31	67
第 4 回研究・事例発表会 (2012 年 12 月 7 日 岡山市)	37	32	81
第 5 回研究・事例発表会 (2013 年 12 月 6 日 下関市)	34	35	88
第 6 回研究・事例発表会 (2014 年 12 月 5 日 松山市)	45	18	82
第 7 回研究・事例発表会 (2015 年 12 月 10,11 日 高知市)	51	41	63
第 8 回研究・事例発表会 (2016 年 11 月 28,29 日 米子市)	42	26	71
第 9 回研究・事例発表会 (2017 年 11 月 29,30 日 徳島市)	34	20	68
第 10 回研究・事例発表会 (2018 年 11 月 30 日, 12 月 1 日 岡山市)	41 ^{*)}	10 ^{*)}	90 ^{*)}

(*: 第 10 回の数字は暫定値)

研究事例発表会の発表は、「研究」、「事例」、「その他」と 3 つの区分に分けて発表を募集している。その件数の推移を表 2 に示した。表 2 に示すように、各会ともに発表は事例の占める割合が

高いことがわかる。この中には、企業側が事例を紹介しているケースも多数見られた。また、回を重ねるに従い、徐々に研究区分の発表が増加していることが窺える。発表の分類¹⁾では、①産学連携事例や産学官連携プロジェクト、リエゾン活動に関わる事例が多い、②知財や人材育成関連、産学連携論に関する発表が定常的にあること、などが明らかになっている。発表内容では、近年、地域連携や人文社会系分野での連携の発表が見られるようになり、産学連携の広がりが感じられる。

表2 研究・事例発表会での発表区分ごとの件数の推移

分類	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
合計	15	16	18	20	17	21	28	23	18	25
研究	1	2	6	3	1	7	6	8	5	5
事例	14	12	11	15	15	14	20	15	13	17
その他	0	2	1	2	1	0	2	0	0	3



写真1 発表会の様子



写真2 情報交換会の様子

3. 2 その他の活動

その他の活動としては、メールニュースやホームページ¹⁾による情報提供と幹事会である。

- 1) メールニュースの配信：支部の構成員向けにメールニュースを発行し、産学連携学会を中心とした産学連携のニュースを配信している。
- 2) ホームページでの情報提供：支部のホームページを開設し、適宜情報提供を行っている。
- 3) 幹事会の実施：支部の運営のための幹事会を実施している。また、幹事会の機会を利用し産学連携の勉強会を行い、問題の共有や情報交換を促進している。

4 支部エリアの会員数の変化

学会としての支部活動の大きな目的の一つに、学会員の増加と言うことがある。産学連携学会の全体の会員数（準会員や団体なども含む）は、2009（平成21）年は239名で、2018（平成30）年4月現在で434名であり、大きく増加している。関西、中国、四国地方の支部エリアの会員数は、2009年10月で63名、2012年3月で74名、2015年7月で104名、2018年7月で111名であり、徐々に増加していることがわかる。全体も増加しており、また、他の支部との比較も行えないため、会員数の増加に支部活動の直接的な影響がどの程度あったのかは不明であるが、一定の貢献はできたものと考えている。

5. 今後の課題とまとめ

関西、中国、四国地方の産学連携従事者などの相互の連携を促進して情報交換を行い、産学連携活動を効果的に進められることを目的に本支部が設立された。成果の発表の機会を設け、産学連携従事者の相互の連携を促進するという目的は達せられたように思われる。今後、産学連携が多様化していく中、支部の活動をどのようにしていくのか、様々な試行が求められる。

【謝辞】

これまでに幹事として支部の運営に多大なご尽力を頂いた、河崎昌之氏（和歌山大学）、澤田芳郎氏（現：茨城大学）、稲岡美恵子氏（現：東洋大学）に感謝いたします。

【引用文献】

1) 産学連携学会 関西・中四国支部ホームページ：<http://www.sgrk.shimane-u.ac.jp/j-sip-B150/>

（連絡先：北村寿宏 支部事務局（島根大学内） j-sip-B150@riko.shimane-u.ac.jp tel：0852-60-2290）